

第9回 ISMSJ モーニングセミナー

このたび、NPO法人 大阪スリープヘルスネットワーク(OSHNet)は、日本臨床睡眠医学会(ISMSJ)との共催で第9回ISMSJ学術集会最終日にモーニングセミナーを開催することになりました。会場の金沢医科大学とのご縁で、同学神経内科学講座の主任教授であった廣瀬源二郎先生にご講演をお願いしております。長年に渡り、神経内科医を中心とした多くの医療従事者に、神経症候学の魅力と観察の大切さを伝え続ける廣瀬先生のセミナーへぜひご参加ください。

日時:平成29年10月1日(日)午前8時30分～9時30分 (受付:8時～)

会場:金沢医科大学 病院中央棟4F 大会議室

眼球運動の診かた

—神経疾患で見られる異常眼球運動—

浅ノ川総合病院脳神経センター
廣瀬源二郎 先生

第9回ISMSJ学術集会参加者だけでなく、OSHNet正会員、賛助会員、スリープアソシエイツの方も参加できます。

問合せ先:

NPO法人 大阪スリープヘルスネットワーク

第9回ISMSJ学術集会モーニングセミナー 担当 杉山華子

E-mail: sugiyama@tominaga.or.jp

共催: NPO法人 大阪スリープヘルスネットワーク



モーニングセミナーの内容



『眼球運動の診かた』 -神経疾患でみられる異常眼球運動-

浅ノ川総合病院脳神経センター
脳神経センター長、常勤顧問
廣瀬源二郎 先生

睡眠医学では睡眠中にみられる眼球運動、rapid eye movement (REM) のみが研究対象となるわけであるが、眼球運動研究はヒトの視覚を司る重要な機能であり古くはアリストテレスにまで遡ると言われる神経科学の重要な研究テーマである。

眼球運動はもともと進化した霊長目、とくにヒトで発達した両眼視から得られる視覚情報を的確にもっとも高い精度で捉えるために発達した複雑な運動機能である。1903年Raymond Dodgeは、眼球運動を5つ(衝動性、滑動性追従、視運動性反射、前庭眼反射、輻輳眼球運動)に分類できることを発表しその測定法についても論及した。以降眼球運動は神経科学の分野で神経生理学者のみならず神経耳科学、神経眼科学、心理学の研究者により詳細に研究され、さらに6つ目の眼球運動の定義として両眼を安定化した位置に留める固視機能が加えられて現在に至っている。REM睡眠中に観察される眼瞼越しの眼球運動も神経生理学者により研究され眼球運動としてはヒト健常者が衝動性眼球運動を閉眼して行った場合のそれと同一であることが判明している。

本日の講演では睡眠時ではなく、覚醒時にみられる眼球運動の種類とその運動機構について解説して、さらにヒトの神経疾患にみられる異常眼球運動をビデオで提示してその臨床的局在診断について講演する。